

高齡入院患者の回診における極意「実践回診！高齡者」

高齡患者の入院診療は、一般成人とは異なると認識しなければならない。一般成人の延長線上で日々の診療を組み立てているだけでは、転倒やせん妄といった合併症、不必要な臥床や絶食による低栄養から、予想以上に進行の早い機能低下といった問題に直面することも多いだろう。機能低下はもとの生活への復帰を困難にし、治療が終わったにもかかわらず退院ができなくなり、さらに医療への依存が進行していく。このような負のスパイラルを断ち切るためには、急性疾患の治療だけにとどまらない、さまざまな対応が、日々の入院診療において欠かせない。

ではどのような心掛けて日々の入院診療を行えばよいのか？ 高齡患者では、特にどのような点に着目すべきなのか？

急性疾患に加えて、認知機能や褥瘡、栄養状態など、その着目すべき点は多岐にわたり、忙しい日々の診療では、残念ながら漏れが生じてしまい、後手に回るといふ苦い経験は、誰も身に覚えがあることであろう。こういうことはできれば避けたいが、これまで、あまり具体的な対応方法はまとめられてこなかった。

そこで今回の Hospitalist では、「すべてのスタッフで高齡者を大切に！」という信念のもとに、日々の回診における極意をまとめたので紹介したい。是非、多職種で共有していただきたい。



※ 切り取って目立つところに貼ろう

回診の極意「実践回診！高齡者」

【しゃ】

社会復帰、それが本当のゴールです。

【い】

一日の生活機能は、快眠・快食・快便から。

【れ】

連携なきところに、高齡患者の回復はない！

【う】

動かすことの合併症を恐れるなかれ！
動かないことの合併症は恐ろしい。

【こ】

転ばぬ先の杖 準備していますか？

【しん】

真のゴールは共有できていますか？

【かい】

介入は常に見直しを！
過ぎたる介入が高齡患者の医療依存を招く。

【せん】

せん妄にはならせない！
あなたの覚悟が患者を救う。

【じっ】

褥瘡をつくるのは患者ではなく、あなた！